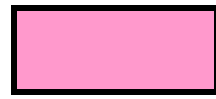


平成27年度 学校評価アンケートのまとめ

一迫商業高等学校

※凡例



よく当てはまる



だいたい当てはまる



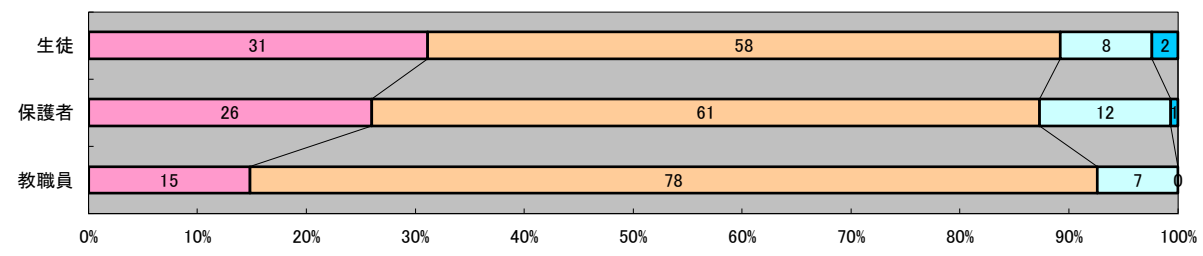
あまり当てはまらない



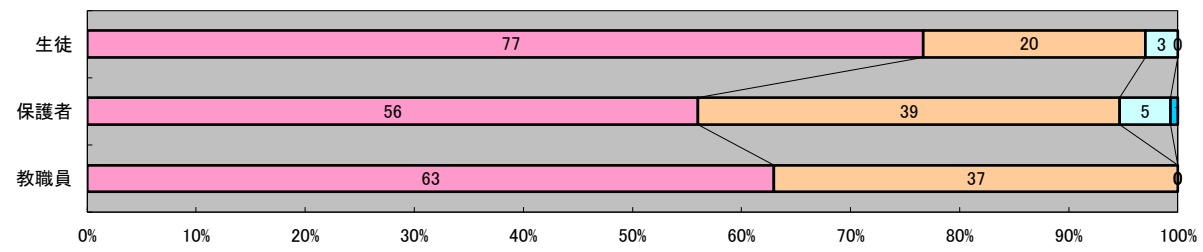
当てはまらない

I 宮城県公立高等学校共通項目

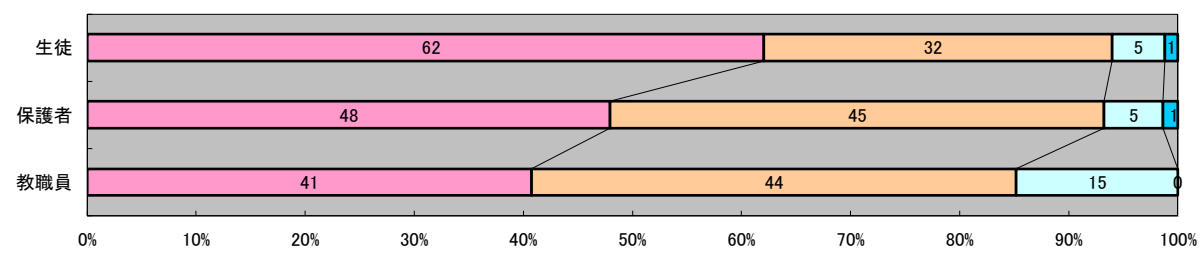
1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）



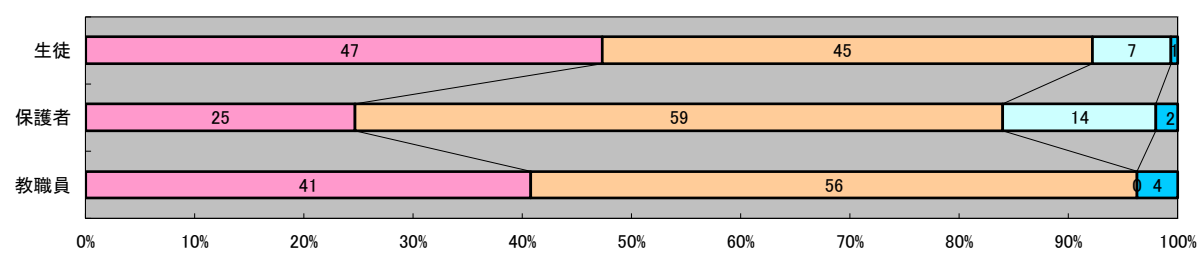
2 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）



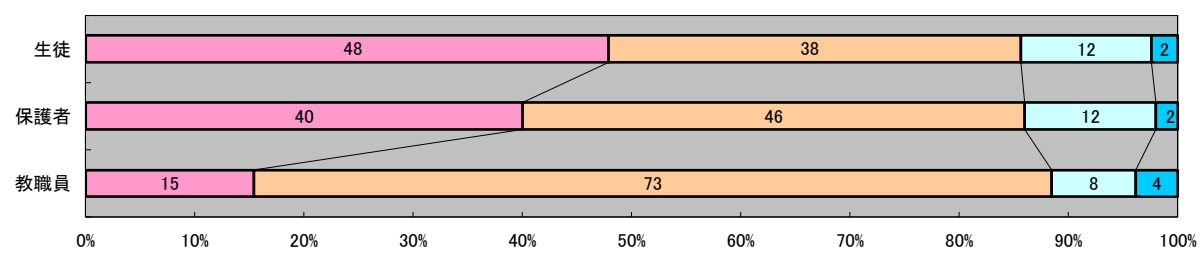
3 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）



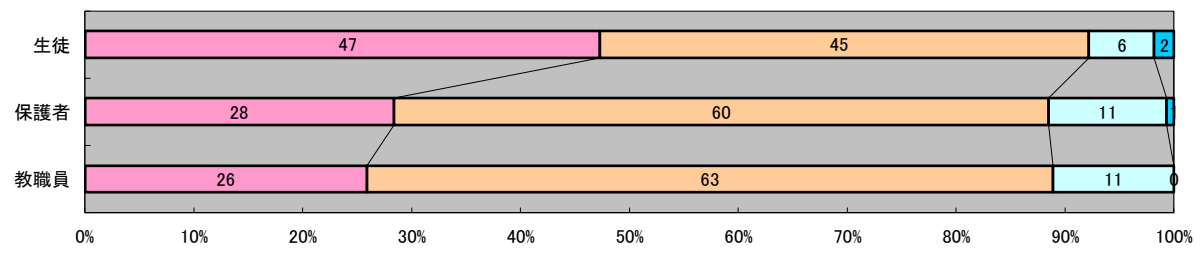
4 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）



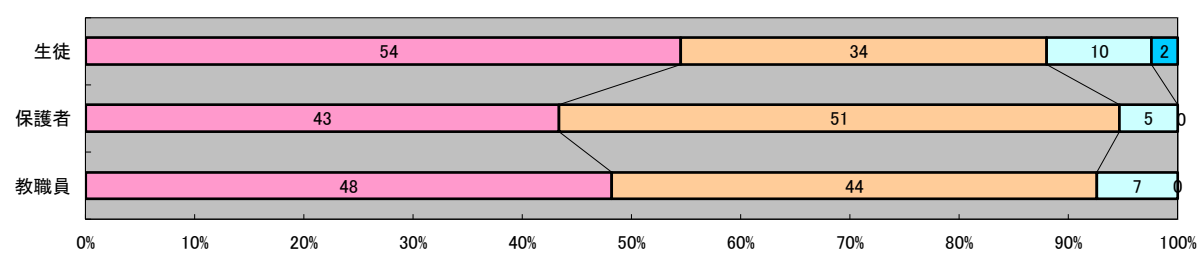
5 部活動は活発に行われている（部活動）



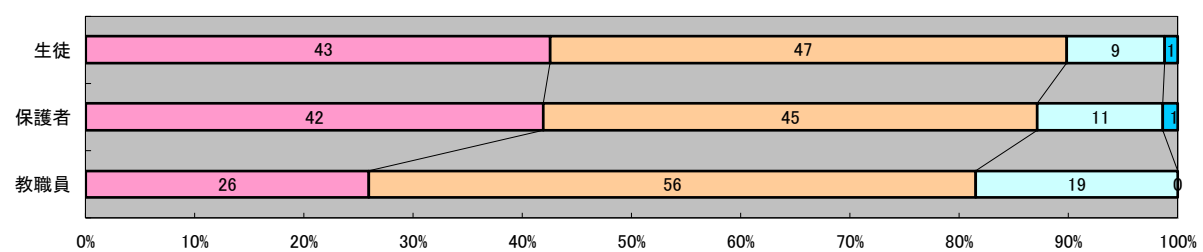
6 生徒会活動は活発に行われている（生徒会活動）



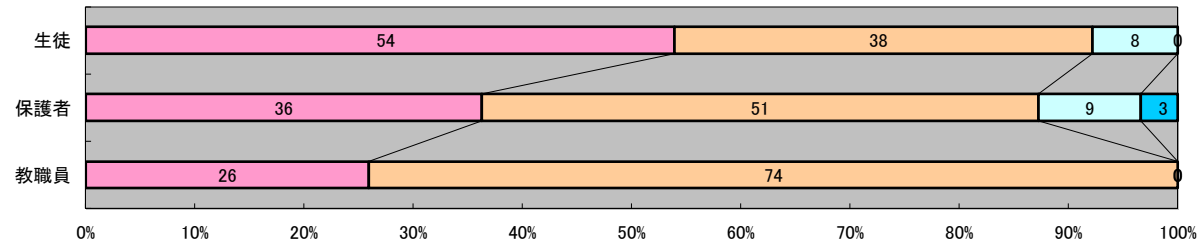
7 有意義な学校行事がある（学校行事）



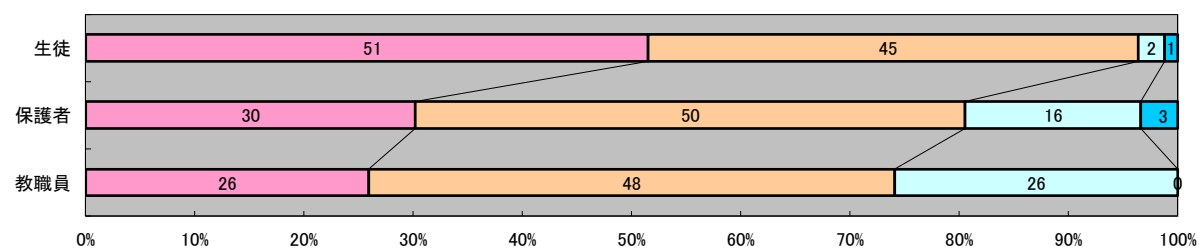
8 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）



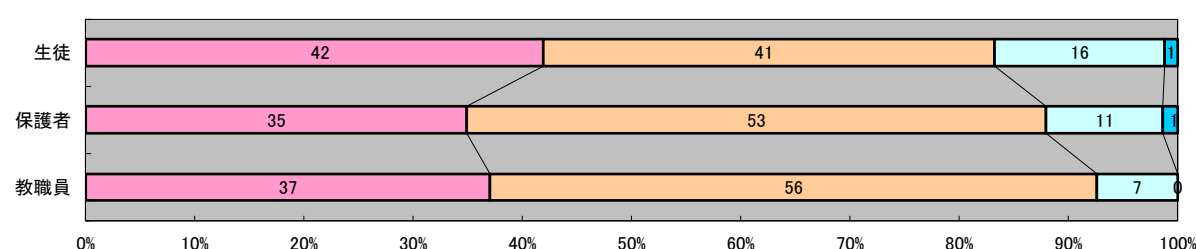
9 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）



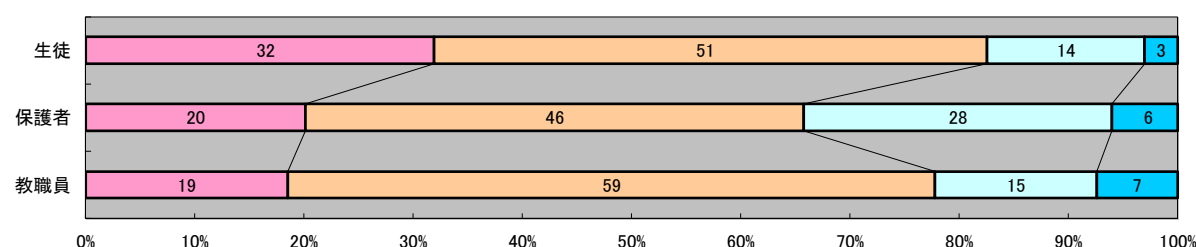
10 学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）



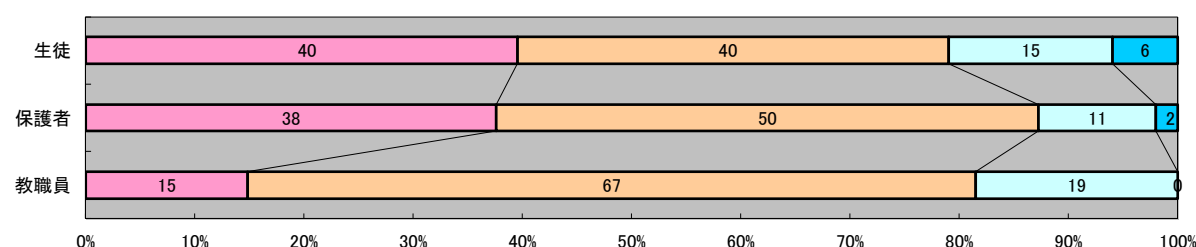
11 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設設備）



12 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題・生徒）
学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている（いじめ問題・保護者・職員）



13 学校生活は充実している（総合満足度）

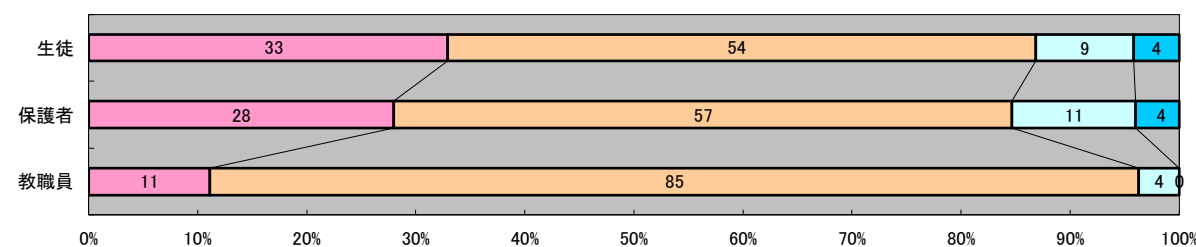


開かれた学校づくりの職員評価、いじめ問題の保護者・教員評価、総合満足度の生徒評価を除き80%を超える高い肯定的回答を得ている。しかし、昨年度との比較において肯定的評価が減少している「いじめ問題に対する取組方針が保護者と共有されている」事に対する取組の必要性があげられる。また、「特色ある学校づくり」に関して特に教職員の肯定評価の減少が目立っている。現行の特色ある学校づくりへの取組について点検する時期が到来していることを示唆しているのではないかと。

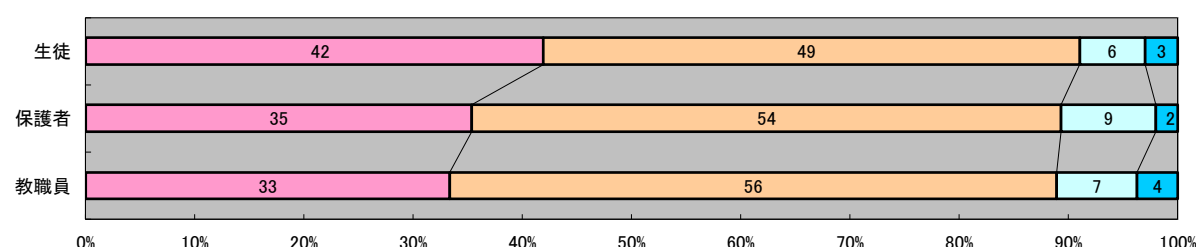
また、昨年度肯定的割合の減少が目立った、防災教育に関しては肯定的な割合が大きく上昇し改善が評価されている。同様に開かれた学校づくりについても、肯定的な評価が増加したものの、依然として80%の割合に至っておらず、継続した努力が必要である。

II 教育方針と学校経営

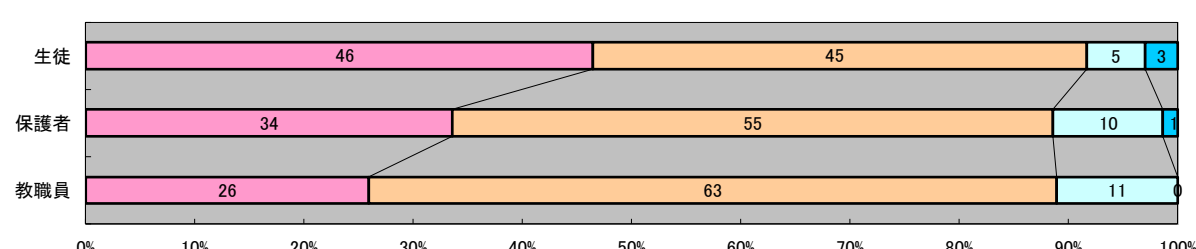
1 本校の教育方針や指導目標が分かりやすく共感できる



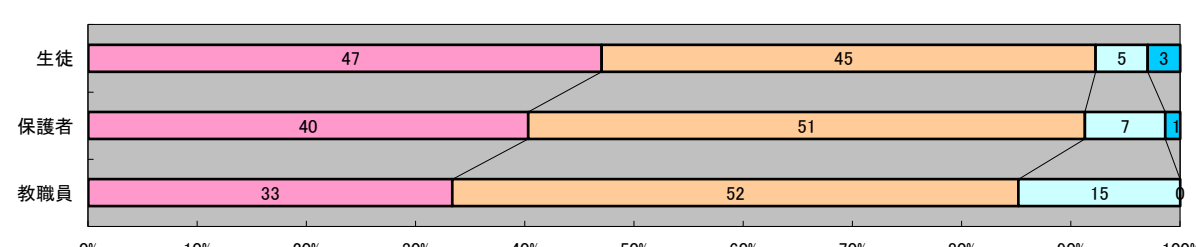
2 本校は、協調と奉仕の精神をもって誠実に責任を果たす生徒を育てようとしている



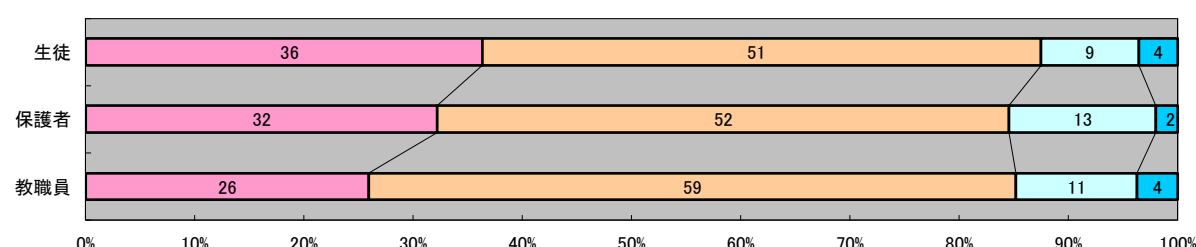
3 本校は、自主的で逞しい実践力のある生徒を育てようとしている



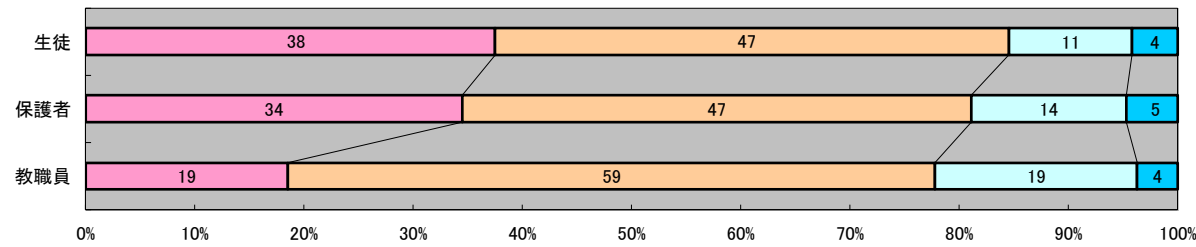
4 本校は、技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める生徒を育てようとしている



5 本校は、豊かな情操と高い道徳心のある生徒を育てようとしている



6 校長のリーダーシップのもと、全職員が一致団結して教育活動にあたっている



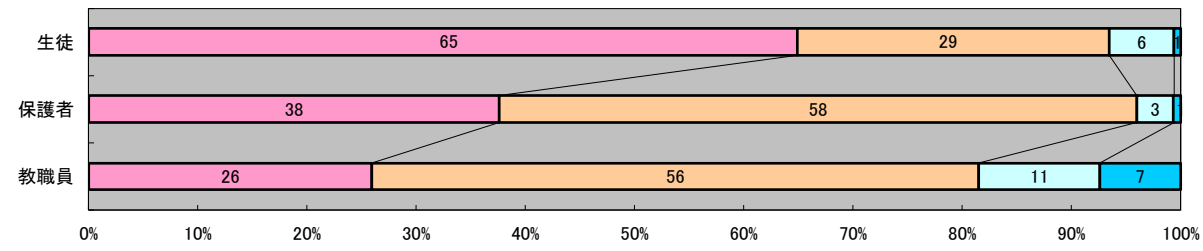
質問項目のほとんどにおいて80%を超える肯定的回答を得ている。このことから、本校の教育方針と学校経営は支持されていると評価できる。しかし、昨年度の評価の割合と比較した場合に、「技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める生徒を育てようとしている」、「豊かな情操と高い道徳心のある生徒を育てようとしている」という項目の肯定的評価の減少と、「校長のリーダーシップのもと、全員が一致団結して教育活動にあたっている」という項目の教職員の肯定的評価の割合が減少している。

さまざまな要因が推測できるが、その一つとして、教職員の移動や、生徒の状況などが変化していく中で、本校の教育活動に対する意見等が多様化してきていることが考えられる。

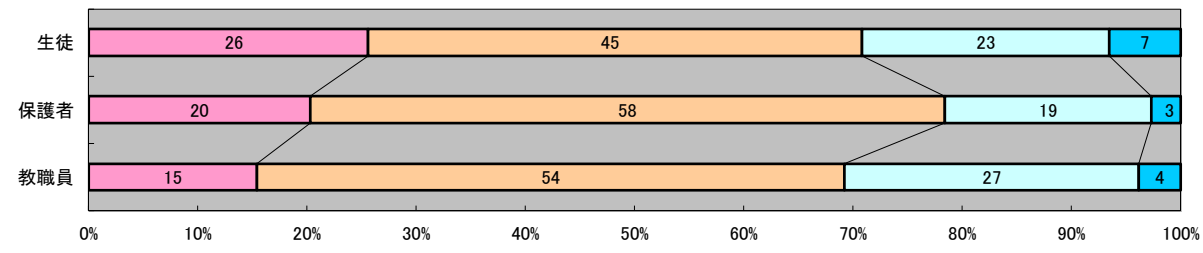
一商における種々の活動の指導方針の点検と意見交換を図る良い機会ではないかと。

Ⅲ 基礎学力の充実向上

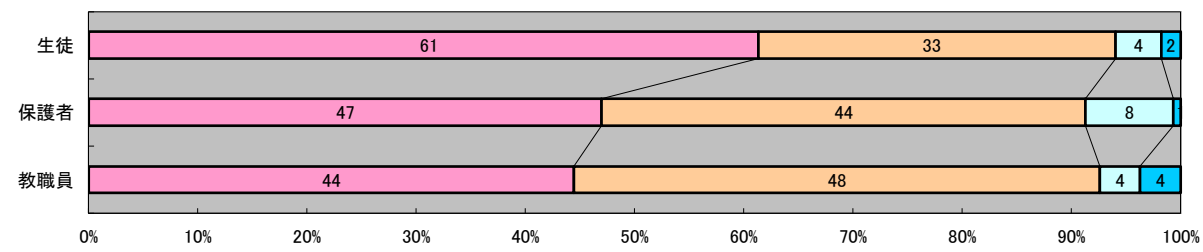
1 本校では、授業日数や時間は十分に確保されている



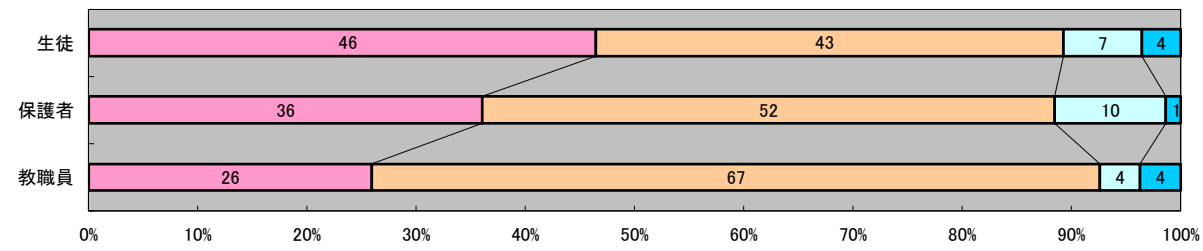
2 本校の先生は、生徒に授業後や週末によく宿題を出している



3 本校では、基礎学力の向上や検定取得に向けて課外や補習などを十分に実施している



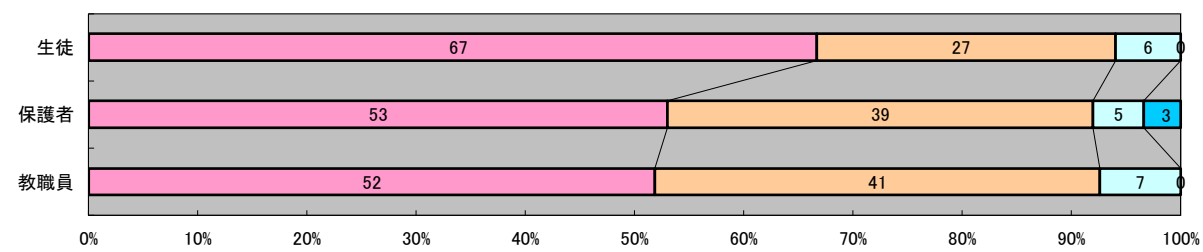
4 本校の学習環境は整っている



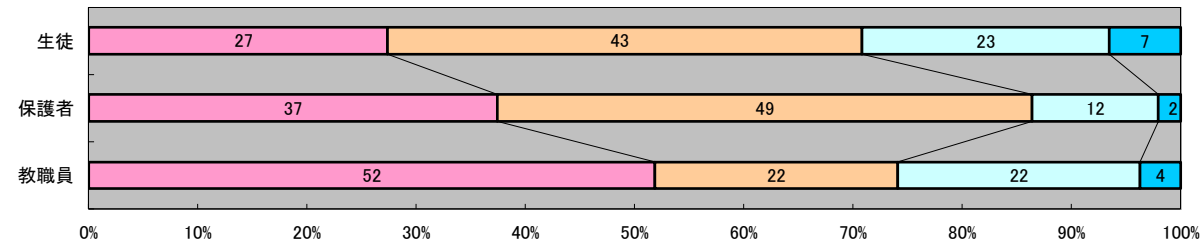
全体的に高い評価を得ている。前年度と比較すると「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の項目において改善傾向である。特に「週末の宿題」についてはすべての対象者で割合が上昇し改善されている。教師の意識の変化が実を結んだと言ってよい。
 保護者における割合が大きく減少した項目に「本校の学習環境」がある。それは物理的なものなのか否かを検討し改善に努めなければならない。
 「授業日数は時間」については、90%台で推移しているが、生徒における割合が減少したのは、昨年同様、学校外の行事や祝日が多かったこと、あるいは上記の学習環境も影響していると考えられるのではないかと。

Ⅳ 規律ある生活習慣の確立

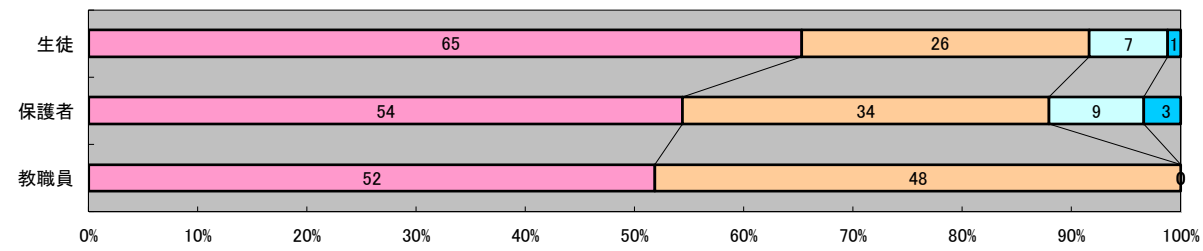
1 本校の生徒は、よくあいさつをする



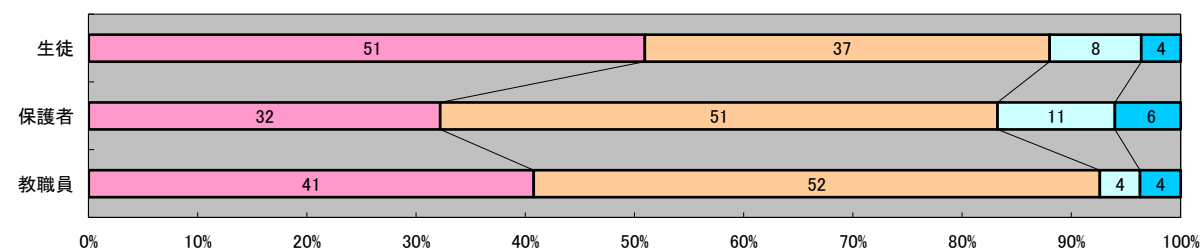
2 本校の生徒は、欠席・遅刻・早退が少ない



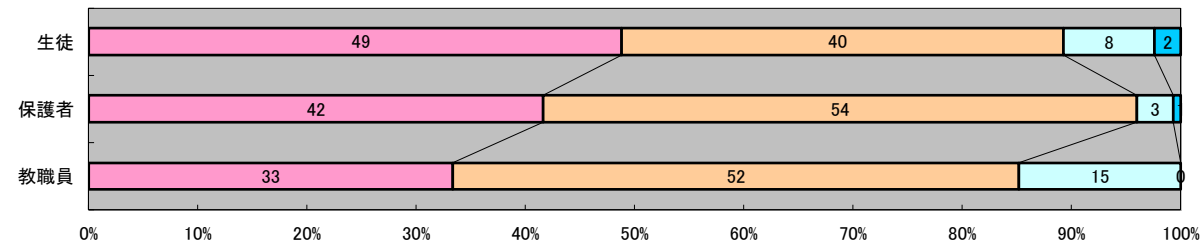
3 本校では、生徒の生活（頭髪や服装を含む）を厳しく指導しておりよいことだ



4 本校では、いじめや差別を許さず厳しく対応している



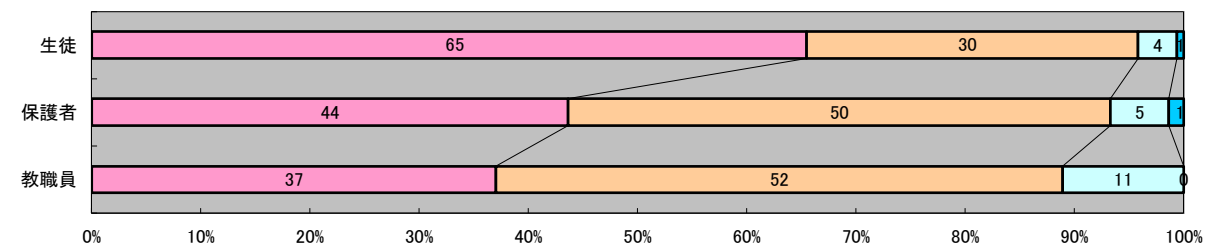
5 本校は、清掃などが徹底されて、きれいで整理されている



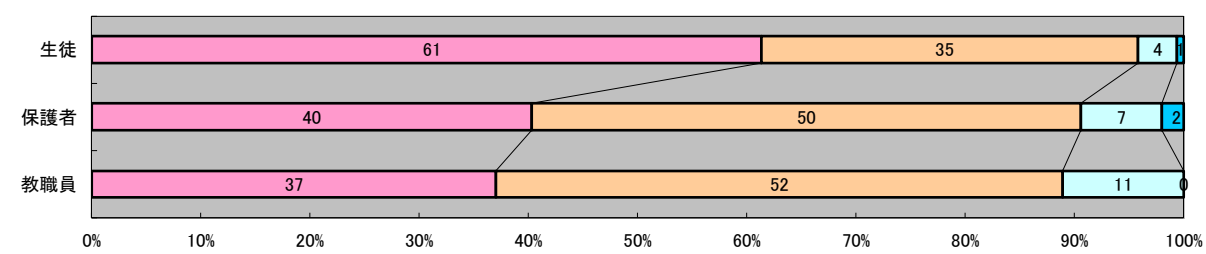
ほとんどの項目で「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が8割を超えており、生徒自身が規律ある生活をおくることができていると感じていると読み取れる結果となった。欠席等の生徒の評価が低いのは、長欠者や休みがちな生徒が各クラスに若干名ずついること、体調不良等で度々遅刻、早退、欠席をする生徒が増えてきたことが数値として表れた。
 職員の評価において、あいさつ、いじめ・差別への対応や清掃の徹底について評価が下がっており、今後共通理解をもって生徒指導に取り組んでいかなければならない。

V 自主的な進路設計とその実現

1 本校では、生徒に適切な進路情報を提供している



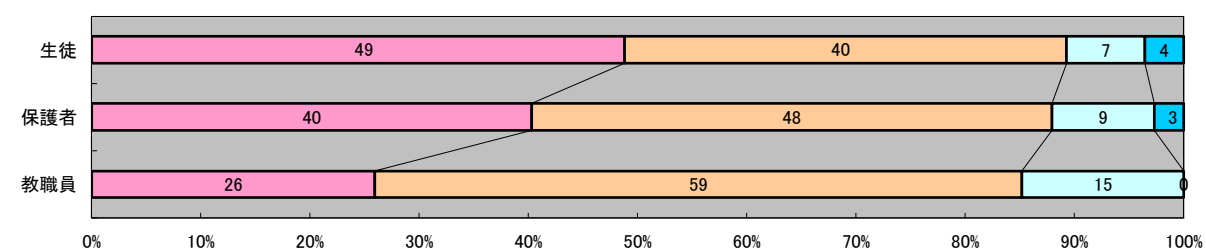
2 本校では、自己の希望する進路を達成をしている



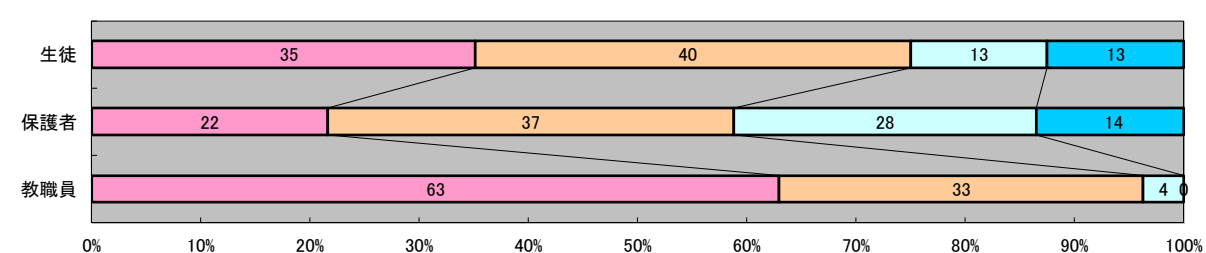
「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の結果から、1の「進路情報の提供」については、生徒の回答が90%を超えているが、保護者の回答が90%を下回る結果となった。進路情報について保護者にむけて頻繁に発信していく必要がある。
 2の「希望する進路の達成」については生徒・保護者ともに90%を超えており、おおむね生徒と保護者が望む進路達成の考えが一致していると推測される。
 今後、進路行事等の精選と検証を進めると同時に、保護者との連携を密にし、入学時から進路を視野に入れた指導を重ね、希望する進路達成100%を目指さなければならないと考える。

VI その他

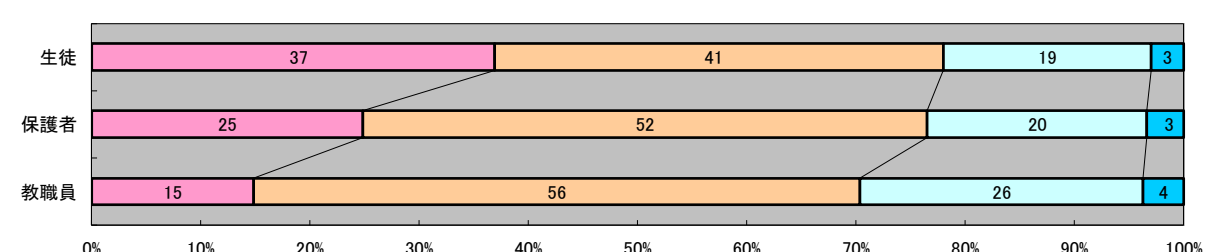
1 本校の職員は、礼儀正しく親切に対応してくれている



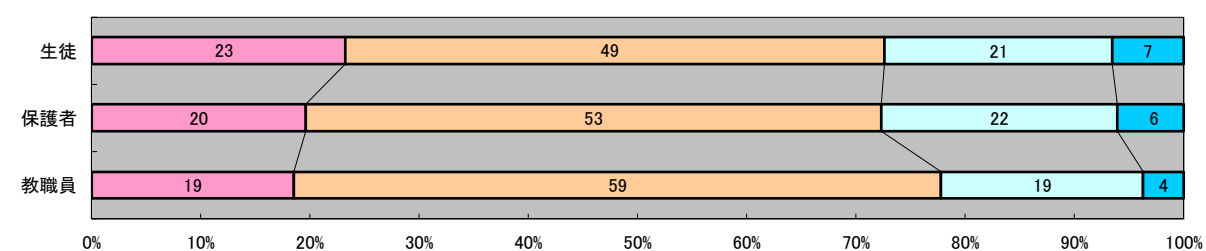
2 本校が実施している栗原版デュアルシステムを知っている



3 本校は、各種のボランティア活動を積極的に行っている



4 本校のホームページは、内容が充実している



質問項目1については保護者の評価が若干だが下がってしまった。職員はこの結果を真摯に受け止め、共通課題として認識することが必要である。
 2の「栗原版デュアルシステム」については、認知度はあまり変化がなく低い。取り組みを保護者に知らせることにより向上すると思われる。
 3の「各種のボランティア活動を積極的に行っている」に関して、保護者の評価が若干だが向上している反面、教職員の評価が大幅に減少している。もっと教職員が積極的に関わる方策を検討する必要がある。
 4の「ホームページの内容充実」については、生徒・保護者・教職員の評価が向上した。今後も更新を定期的に行うなど改善や工夫が必要である。